

南小倉中だより

北九州市立南小倉中学校 校長 井上 要
ホームページ minamikokura-J@kita9.ed.jp



平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

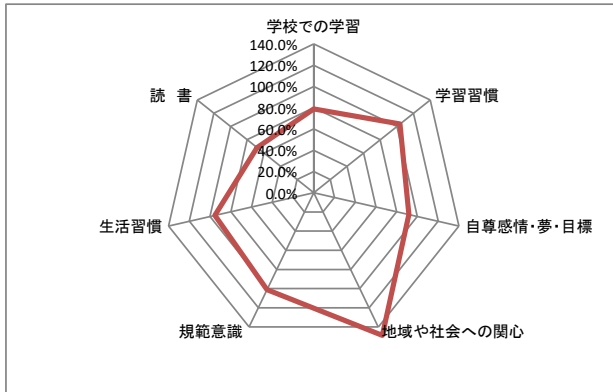
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	・選択式問題形式は無回答率が低いが、記述式の問題形式や「活用」に関する問題の無回答率が高い。	下回っている
数学	・どの分野においても全国平均正答率を下回っており、基礎・基本の定着が課題である。 ・全体的に、「数学的な見方や考え方」に関する問題は、正答率が低く、無回答率が高い。	下回っている
英語	・問題形式に関わらず、「言語や文化についての知識・理解」が低く、特に、「書くこと」の領域の問題が正答率が低い。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・生活習慣では、「同じくらいの時間に起きている」や「朝食を毎日食べている」割合が全国平均を下回っている。携帯電話等の使用などで就寝時間が遅れるということが考えられるため、使用方法の指導・啓発をしていきたい。
- ・学習習慣については、全国平均を上回っているが、学校での学習は、話し合う活動の中で自分の考えを深めたり広げたりするなど、自ら課題に取り組み、考えることについて課題がみられた。
- ・読書をする生徒が全国平均の半分以下である。
- ・地域やPTAとの連携により、地域行事へ参加する生徒の割合が大変高い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・南中スタンダード(めあて→個人→集団→まとめ・ふりかえり)で授業の実践を行っている。
- ・帰りの学活で20分間のステップアップタイム(補充学習)を実施し、学習内容の基礎・基本の定着を図る。
- ・読書の日の取組や各教科で図書室の利用回数を増やすなど、読書に親しむ機会を増やす。
- ・生徒の主体性を重視した授業づくりについて、保健体育科を中心に研修や各教科での授業改善を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・自主学習ノートを活用し、家庭学習の定着および「書く」学習習慣の確立と質の向上に取り組む。
- ・学級活動だけでなく、家庭科や保健体育科などの授業でも、規則正しい生活習慣について教科横断的に取り組む。
- ・毎月1回以上の学校通信、学年通信、学校ホームページで学校の取組を保護者・地域に周知する。
- ・中学校区で同じ課題について共同で研修を行い、9年間を見通した指導を継続する。